

(公共事業関係)

(問) 道路や河川の整備などにかけている予算が多すぎるのではないですか？無駄な公共事業はありませんか？

(答) 公共事業の実施に当たっては、限られた予算の中で、総額を抑制しながら真に必要な事業を実施しています。社会資本整備が遅れていることなどから、総予算額に占める投資的経費(普通建設事業+災害復旧事業)は、全国平均は上回っているものの、九州平均と同じ水準にあります。

普通建設事業の総額は、バブル崩壊後の国の景気対策に積極的に対応したため、平成8年度にはバブル崩壊前(平成元年度)の1.63倍の3,354億円(歳出全体の約4割)まで拡大し、その後も国体開催に伴う施設整備や新幹線鹿児島ルート建設事業等の影響で平成12年度まで高水準で推移しました。

その後、財政健全化の取組みを進めるにつれ事業費は徐々に縮減し、平成18年度にはピーク時の約半分以下の1,622億円となっています。

本県の道路改良率は、全国や九州平均に比べると低い状況(熊本県58.0%、全国66.2%、九州64.2%)にありますので、今後も限られた予算の中でも、真に必要な事業を実施し、整備水準の向上を目指していきます。

熊本県の 投資的経費	金額(億円)	歳出全体に占める構成比		
		熊本県	全国平均	九州平均
	1,721	23.6%	17.7%	23.9%

(注) H18年度決算 投資的経費(1,721億円) = 普通建設事業(1,622億円) + 災害復旧事業(99億円)

